

『今私達ができること。』

お疲れ様です。

さあ、3月が始まりました！

と、勢いよく行きたいところですが、今、世間はコロナウイルスの話で自粛ムード真っ盛り。

そして、その余波は飲食業界にも出てきています。

宴会のキャンセルや日々の売上げの低下など。

不安に感じている人もいるのではないのでしょうか？

しかし、まず言いたいこと！

『コレばかりは今、ジタバタしてもどうすることもできない！』

私達に出来る事は、お客様の不安を少しでも取り除ける努力、スタッフの安全を守り、また店舗の経営状況を少しでも健全に保つため、みんなで協力し合えること、その全てをやる事です。

そして、こんな大変な時だからこそ、今まで見えなかった多くの事に気づかされることも沢山あります。

先日、小伝馬町にシフトインしている時に改めて感じました。

メンバーと話す時間があり、ふと自分がお店を始めた時に考えていたことを思い出しました。

【自分が将来、どんな仕事をしたいのだろうか？】

今、お店で働いている人の中には学生さんも多く、その進路をこれから決める子達もたくさんいます。

そして、学生さんだけでなく、今、ここで"働いている事の意味"を模索している人もいます。

そんな人達に向けて伝えたい事。それが、今回の手紙です。

今、この世界であらゆる【仕事】。これら全てに共通している事。それは

『エンドユーザー』が存在すると言う事です。

エンドユーザーとは、わかりやすく言えば、『その商品を最後に使う人、受け取る人』の事です。

技術職、専門職ならその商品(物品だけではなく、技術や感動など)、を考え、作り、営業職ならそれを売る。

人を管理する、教育する職なら、その商品をエンドユーザーに届ける人材を育てる。

つまり、仕事をするという事はエンドユーザーなしには考えられないのです。

そして、飲食店には、買い手（エンドユーザー）が目の前にいる職なのです。それが【お客様】です。

この、目の前にいるお客様に最高の料理とサービスを提供する事こそが飲食店の全てなのです。

これから、進路を考える人、働く事の意味を考えている人。

まずは、この飲食店で目の前のエンドユーザーにしっかりと目を向けて働いて欲しいと考えています。

お客様が料理を食べている【表情】。

注文を持って行った時の【表情】。

そして、お店を出る時の【表情】。

このお客様の表情から、『想像力』を働かせて欲しいのです。

お客様は何を欲しがっているか？

お客様は何を感じているか？

お客様はどう思っているか？

この『観察力』と『想像力』こそが、エンドユーザーがいるあらゆる【仕事】の何より大切な武器なのです。

これからの皆さんの武器になるのです。

先日亡くなられた野村克也元監督が言っています。

「どうするか」を考えない人に「どうなるか」はわからない。

やりたい事というのは突然現れるものではないと思います。迷ってる時こそ目の前の事に一所懸命に取り組むのです。その時目の前は晴れ、答えが見えてくるのだと思います。

改めて自分が飲食店を開業した時の事を思い出しました。

僕は今一緒に働いてくれているメンバーの子達のためになるような場を作っていきたい。そう、『想像』しました。

僕の仕事の最終的なエンドユーザーは『みなさん』なのです。

まだまだ至らない所が多々ありますが、そんな大切な初心を思い出す事ができ、僕自身これからの動きをもう一度しっかり考えるための時間にすることができました。

改めて皆さん！

今日から、いつもよりいっそうお客様を『観察』し、そして、このお客様を感度させるために何が  
できるか『想像』して下さい！

目の前にいる『エンドユーザーの笑顔』のために。

2020. 3. 6 松岡 保浩